

### 英語コミュニケーション科の特徴

「明るく・楽しく・面白く」「英語嫌いを出不さない」授業スタイルにこだわって担任とALTが手探りで授業を考えている。特徴として以下の点が挙げられる。

- 1 ALTがT1, 担任がT2の役割を果たす授業を基本としている。担任は授業中, T2であるが, T2として授業のマネジメントを行う。また, 担任がALTと積極的にコミュニケーションをとり, 彼らの良さを知ることが重要と考えている。
- 2 アクティビティを中心に, 1時間たっぷり活動させる。その授業で「何を育てるのか」「どのように育てるのか」「コミュニケーション能力の中のどんな力を身に付けさせたいのか」を明確にしたアクティビティを考えていくことを大切にする。
- 3 ALT(ネイティブ)が話す英語を1年生から6年間, シャワーのようにたっぷり聞かせることをベースとした言語活動に取り組みさせる。
- 4 児童同士, 児童とALT, 児童と担任によるコミュニケーション活動を, 発達段階に応じた題材を介して, 繰り返し指導していく。そのために, 目の前の学級の子供たちの実態から授業を考えることを大切にしている。

#### ★ 汐見小児童へのアンケート (R5の結果より)

##### 【Q. 英語コミュニケーションの授業は楽しいですか?】

	とても楽しい	楽しい	少しだけ楽しい	楽しくない
汐見小	50%	39%	10%	1%
	89%		11%	

##### 【Q. 英語を使ってもっとできるようになりたいことは何ですか? \*複数回答】

	英語で話せるようになりたい	英語で簡単な意見発表ができるようになりたい	英語を聞き取れるようになりたい	英語の文を書くことができるようになりたい
汐見小	78%	38%	72%	63%



- ・「とても楽しい」「楽しい」と回答した児童は89%と高い結果である。しかし, 11%の児童はあまり楽しさを感じていないという状況である。
- ・英語で「話したい」と回答した児童は78%とやや高い結果である。英語での会話に対する興味を持っていることが分かる。

#### 【成果と課題】

○他教科と関連させて「夢を持たせる」単元を作ることで児童の「覚えたい」「知りたい」という興味関心が高まり、難しい言葉を覚える意欲につながった。

▲新しく学習する表現を使えるようにすることで精一杯であった。今後、場面状況に応じて思考力を働かせ、「生きた英語」を使えるようにする授業展開・単元構成を考えていきたい。

▲単元の流れの中で、より効果的な「読む活動」の位置付けを検討したい。

